

岩手県野田村支援・交流活動

いつも多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本学ボランティアセンターでは、東日本大震災以降、甚大な被害に見舞われた岩手県九戸郡野田村への支援・交流活動を今日まで継続しています。本活動は、学生と市民、そして行政が一緒になって行っています。

昨年は、夏祭り、夏休み宿泊学習会、クリスマス会、追悼式の参列を計画しておりましたが、7月末からのコロナウイルス感染の急拡大を受け、夏祭りと夏休み宿泊学習会は中止といたしました。

感染状況が落ち着いたことから12月に「野田村クリスマス会」を開催しました。クリスマス会では、初めにインストラクター2名によるダンスパフォーマンスやダンスレッスンが行われました。ダンスレッスンの後は、スパンコールや空き瓶を利用したスノードームづくりを行いました。限られた時間ではありましたが、野田村の子どもたちと楽しいクリスマスイブを過ごしました。

そして、東日本大震災から12年目となる3月11日は感染状況が少し落ち着いたことから、学生代表と引率教員で出向き、追悼式をリモートで中継しました。そして、市民の皆さんはパブリックビューイング会場で参列いたしました。厳しい状況下ですが、震災の教訓を忘れず次の世代に繋いでいくために、今後も継続して実施したいと考えています。

東日本大震災から12年という時間が経過し、復興は順調に進んでいるように見えますが、心の復興、コミュニティの再生はこれからであるという声が多く聞こえています。新型コロナで止まった時間を取り戻せるように、これからも被災地に寄り添い、被災者の皆さんと弘前市民、学生諸君の笑顔があふれる活動を継続していきたいと思っております。今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長
人文社会科学部・教授 李 永俊

私は医学部1年の米内山渚花と申します。入学後、地域ボランティア入門の授業で、本学のボランティアセンターの存在を知り、学習支援などの活動に参加いたしました。野田村の支援交流事業につきまして、今年度は新型コロナウイルス感染症の状況により、夏祭りと宿泊体験学習は中止となりましたが、12月には野田村の子供たちへ向けたクリスマス会の開催、3月には野田村の東日本大震災追悼行事への参列および弘前市民向けのパブリックビューイングを実施いたしました。クリスマス会では、子供たちと共にダンスやレクリエーションを行いました。また、活動の最中や終了後には、子供たちから「楽しかった、来年も参加したい」「来年も来て欲しい、また一緒に遊びたい」といった嬉しい言葉を受け取りました。子供たちにとって楽しい活動にするだけでなく、ボランティア参加者がやりがいを得られる活動にすることができたと感じております。これからも被災地への支援活動に取り組み、心の面を含めた復興を目指していくと共に、被災地と弘前市のコミュニティをつなぐ役割を果たしていく所存でございます。

最後になりましたが、野田村交流活動のためにご寄付いただいた皆様に感謝申し上げます。

医学部1年 米内山 渚花